

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策1-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	水産課長 細馬 康二	電話番号	0852-22-5311
----------	------------	------	--------------

事務事業の名称	しまねの魚消費拡大プロジェクト事業		
目的	(1) 対象	漁業者、漁協、水産加工業者	
	(2) 意図	アジ、サバ等の多獲性魚類や未利用魚を有効活用した特産加工品の開発、消費拡大の取組を通して、魚価の向上としまねの魚の消費拡大を図る	
事業概要	消費者ニーズに対応した競争力のある商品づくり、販売促進、魚食普及活動を推進し、水産物の需要増加を目指す		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	商品開発数	年度					単位
			23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
式・定義	地さかなを利用して開発した商品数（試作品も含む）	目標値		5.00	5.00	5.00	5.00	件
		実績値	4.00	4.00	5.00	5.00		
		達成率		80.00	100.00	100.00		
指標名			年度					単位
			23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
			目標値		0.00	0.00		
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00		
			達成率		0.00	0.00		

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	6,521	4,249
うち一般財源(千円)	6,521	4,249

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

多獲性魚類や未利用魚の有効活用には、地元での一次加工処理等が必要であることは関係者の共通認識である。しかしながら、いざ実施するとすると新たな設備投資、人員不足等の問題が発生するため、一部の事業者の取組に限られてしまう。消費拡大には消費者ニーズに合った商品を開発していくことが必要であるが、併せて、開発した商品をどのように売り込んでいくのが重要である。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

一次加工（ヘッドカット、内臓除去、フィレ処理）の機械化について、機器をレンタルして研修会を開催し、研修に参加した機関において、計画中の水産加工場への機器導入を検討している。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

新たに一次加工・商品開発等に取り組むことの出来る事業者は限られている。

②困っている状況が発生している「原因」

新たな設備投資にかかる費用負担、商品開発に携わる人材不足が問題となっている。

③原因を解消するための「課題」

- ・設備投資にかかる費用負担の軽減
- ・商品開発、販路開拓の人材育成

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

一次加工・商品開発等に取り組む意欲のある事業者（加工組合、魚商組合、グループ等からピックアップ）と水産関係者（生産者、漁協、行政）だけでなく、最終的には消費拡大につながるよう、商工会等水産関係者以外のメンバーとも一緒に連携強化を図り、費用負担軽減方法、人材育成について検討を行う。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）